



2026年版 心臓病と脳卒中の統計アップデート ファクトシート アメリカにおける 先天性心血管欠損（生まれつき心臓や血管のでき方に問題がある状態）

先天性心血管欠損（CCDs）は、先天性心疾患（生まれつき心臓に問題がある病気）ともよばれ、生まれつき心臓や血管の形やでき方に問題がある病気です。これは、生まれつきの体の問題のひとつとして、世界中で最も多くみられる病気です。先天性心血管欠損（生まれつき心臓や血管のでき方に問題がある状態、CCDs）の程度はさまざまで、自然に治る軽い異常や、血液の流れにほとんど影響しない問題から、欠如（心臓の一部がない）、形成不全（十分に育っていない）、閉鎖部（通り道がふさがっている）といったとても複雑な異常まであります。先天性心血管欠損のあらわれ方は人によって大きく違うため、一生のなかで、病気の影響の大きさ、亡くなる危険性、医療にかかる費用にも大きな違いが出ます。また、先天性心血管欠損の種類によっては、ほかの慢性の小児疾患（長く続く子どもの病気）と同じくらい、毎日の生活が大変になることがあります。さらに、考える力や脳の発達（神経発達）に影響が出る場合もあります。

全米先天性障害予防ネットワークという機関は、2010年から2014年にアメリカの39地域の調査をもとに、代表的な29種類の生まれつきの病気（出生異常）が、生まれた子どもにどれくらいの割合で見られるかをまとめました。その結果、生まれてくる赤ちゃん1,000人につき、先天性（生まれつき）の心臓の病気がどのような割合で見られるかがわかりました：房室中隔欠損（心臓のへやの間の壁に穴がある）0.54人、大動脈縮窄（心臓から出る太い血管がせまくなっている）0.56人、総動脈幹症（血管の分かれ方に問題がある）0.067人、両大血管右室起始症（太い血管が右のへやから出ている）0.17人、左心低形成症候群（HLHS、左側の心臓が十分に育たない病気）0.26人、その他の単心室（心臓のへやが1つしか働かない）0.079人、大動脈弓離断（大動脈が途中で切れている）0.062人、肺動脈弁閉鎖／狭窄（肺へ行く血液の出口が閉じている／せまい）0.97人、ファロー四徴症（TOF、4つの心臓の異常が組み合わさった病気）0.46人、総肺静脈還流異常（肺からの血液の戻り道がちがう）0.14人

有病率（その時点で病気をもっている人の割合）

- 1990年から2017年のデータによると、アメリカを含む北米の高所得国では、先天性心血管欠損は、出生1,000人あたり12.3人に見られると考えられています。
- アメリカでは、2017年には全年齢で約466,566人が先天性心血管欠損をもっているとされており、そのうち279,320人（60%）は20歳未満でした。

死亡（亡くなる人の数）

- 2023年、アメリカで先天性心血管欠損に関連して亡くなった人は、全年齢で3,059人でした。
- 2023年のアメリカにおける年齢による違いを調整して考えると、死亡率は10万人あたり1.0人でした。
- 2023年のアメリカでは、出生異常が原因で2023年に亡くなった乳児（1歳未満）のうち心臓の異常が最も多く、出生異常で亡くなった乳児の22.7%に心臓の異常がありました。

危険因子（病気になりやすくする要因）

- お母さんが太りすぎだったり、糖尿病だったり、たばこを吸ったり、または35歳以上であることは、生まれてくる子どもが冠動脈性心疾患（心臓の血管の病気）になりやすくなることと関係がある、というはっきりした証拠があります。
- また、妊娠のはじめのころにお母さんが麻酔を使った治療を受けると、生まれた赤ちゃんが先天性心血管欠損をもつ可能性が、麻酔を使わなかった場合と比べて1.5倍くらい高くなることが示されています。
- 生殖補助医療（体外受精などの不妊治療）と、生まれてくる子どもに先天性心血管欠損が見られることには、関係があることがわかっています。
- また、妊娠する前の3か月間に、お母さんが一度にたくさんお酒を飲むと、赤ちゃんに先天性心血管欠損が起こりやすくなります。さらに、お酒をたくさん飲むこと、たばこを吸うことが重なると、とくに危険になる可能性があります。

特に記載のない限り、本ファクトシートに記載されている統計は米国に関するものです。報告されている統計の参考文献および追加情報については、完全版の統計アップデートを参照してください。

- 妊娠のはじめのころに、お母さんが血圧を下げる薬（ACE 阻害薬、抗アドレナリン薬、β 遮断薬、カルシウム拮抗薬、利尿薬など）を使うことも、赤ちゃんの先天性心血管欠損と関係があるとされています。その他に、お母さんが妊娠のはじめのころに使うと先天性心血管欠損の起こる確率が高くなる可能性のある薬には、抗菌薬（細菌を殺したり増えないようにする薬）全般、スルホンアミド系薬、ニトロフラントイン、キノロン系薬、尿路消毒薬、エリスロマイシン、インスリン、不妊治療薬、クロミフェン、絨毛性ゴナドトロピン、非ステロイド性抗炎症薬、ベンゾジアゼピン系薬、リチウム、抗てんかん薬、選択的セロトニン再取り込み阻害薬（例：パロキセチン）、三環系抗うつ薬などがあります。
- これまでは、葉酸というビタミンが足りないことが心臓や血管の病気の原因になると考えられてきました。しかし、最近の研究をまとめた結果では、はっきりした関係は見つかりませんでした。
- お母さんが妊娠中に感染症にかかった場合、それが B 型肝炎ウイルス、コクサッキー B ウイルス、ヒトサイトメガロウイルスの感染症だと、赤ちゃんの先天性心血管欠損と関係があることがわかっています。
- また、お父さんについては、麻酔や交感神経を刺激する薬、農薬や薬品などにふれることも、生まれつきの心臓の病気のリスクを高める可能性があります。

入院と医療費

- キッズ入院データベースの 2003 年～2016 年のデータによると、18 歳未満の患者のうち、先天性心血管欠損で入院した子どもは、31.8% 増えました。その一方で、子どもの入院全体は、同じ期間に 13.4% 減りました。
 - 入院 1 回の入院にかかるお金の平均的な金額は、35,577 ドルから 61,696 ドルへと増えました。ただし、入院中に亡くなる割合（死亡率）は、3.2% から 2.7% に下がりました。

ファクトシート（事実をまとめた資料）、インフォグラフィック（図やイラストで説明した資料）、および最新／過去の統計アップデート出版物は、次の場所からダウンロードできます。

[心臓病と脳卒中の統計 | アメリカ心臓協会](#)（英語のウェブサイト）。

このファクトシートに載っている多くの統計は、統計アップデート）文書のために作られた、未公表の集計データから来ています。これらの統計は、下に示す文書の引用情報（情報の出どころとして正確な文書名を示すこと）を使って引用することができます。集計に使われたデータの出典は、完全版のファクトシートに一覧として掲載されています。また、一部の統計は、すでに公表された研究からのものです。このファクトシートにある統計を引用する場合は、完全版の「心臓病と脳卒中に関する統計」文書を確認し、データの出典と元の引用文献を確認してください。

アメリカ心臓協会は、完全版の文書の引用時に次の記載を含めることを要求します。

Palaniappan LP, Allen NB, Almarzooq ZI, Anderson CAM, Arora P, Avery CL, Baker-Smith CM, Bansal N, Currie ME, Earlie RS, Fan W, Fetterman JL, Barone Gibbs B, Heard DG, Hiremath S, Hong H, Hyacinth HI, Ibeh C, Jiang T, Johansen MC, Kazi DS, Ko D, Kwan TW, Leppert MH, Li Y, Magnani JW, Martin KA, Martin SS, Michos ED, Mussolino ME, Ogungbe O, Parikh NI, Perez MV, Perman SM, Sarraju A, Shah NS, Springer MV, St-Onge M-P, Thacker EL, Tierney S, Urbut SM, Van Spall HGC, Voeks JH, Whelton SP, Wong SS, Zhao J, Khan SS, アメリカ心臓協会 疫学・予防評議会 統計委員会および脳卒中統計委員会を代表して。2026 年版 心臓病と脳卒中の統計：アメリカ心臓協会の米国およびグローバルデータのレポート *Circulation*. Published online January 21, 2026.

メディアからのお問い合わせは、すべて News Media Relations <http://newsroom.heart.org/newsmedia/contacts>（英語のウェブサイト）にお願いいたします。

特に記載のない限り、本ファクトシートに記載されている統計は米国に関するものです。報告されている統計の参考文献および追加情報については、完全版の統計アップデートを参照してください。